

5

九〇年代の闘い

それは、攻防に制約されながら、局地戦と平和攻防の中で、グローバリズムに対抗した人民連帯の拡大、政治的・社会的な各々の主体再形成を目指しました。それもまた、「テロリスト」攻撃にさらされた私たちや、他の國の闘う人々自身の眞の戦いの意志を復権させる再生の戦いでもあります。

ソ連・東欧の社会主义の崩壊に始まる九〇年代は、湾岸戦争を経て、アメリカを中心とする帝国主義勢力による一極支配、グローバリズムの一元的支持を急速にもたらしました。アメリカは多国籍資本の自由を保障する市場と、その上部構造となる複数の組織を復権させています。

今、二十一世紀の世界の姿が見え始めています

国家が半国家へ、これまでの国家が「国際基準」の名においてアメリカ式の基準に制約され、各國主権の制約された半国家へと変わろうとしています。自國のありようを決定する力は、もはや、より大きな外部勢力によって規定されようとしています。

アジア通貨危機は、そのことを示す一つの出来事でした。それは、暴利をむさぼる短期資本の急激な移動という、悪辣な金融資本による架空資本操作の策謀によって、アジア各国国民経済が解体再編され、アメリカ基準のグローバリズムの支配構造に組み込まれつることを意味しています。これまで歐米に対して独立性を保持するアジア、特に日本が主唱したアジア通貨基金構想などのアジア経済圏の形成を阻止する狙いがありました。さらに日本そのものを、アメリカを中心とするグローバル独占資本の支配下におこうとする策動が展開されています。グローバリズムは競争を激化させ、最も力のある勢力の下に、帝国主義国家をも半国家化していくます。

現日本政府は、アメリカとの永久的な同盟によつて、アジアの人々に敵対する日本の進路を進んでいます

八〇年代後半にバブル経済を謳歌していた「ジャパン・アズナバーウン」としての繁栄は、踊らされた

時代の繁栄であったことが明らかになっています。今や、日本の支配階級自身がアメリカの独占資本の強制と民族解放・民族国家の独立を尊き、帝国主義勢力を規制してきました。「國家は独立を求める、民族は解放を求める、人民は革命を求める」という時代となりました。

二世紀は、金融資本をはじめとするグローバル

二〇世紀は、戦争と革命のみました

日露戦争で始まつた帝国主義戦争は、その後、第一次世界大戦・第二次世界大戦と、帝国主義諸国列強間の戦争を導き、一九一七年のロシア革命に始まる社会主義革命・民族解放闘争は、社会主義諸国体制と民族解放・民族国家の独立を尊き、帝国主義勢力を規制してきました。「國家は独立を求める、民族は解放を求める、人民は革命を求める」という時代となりました。

二世紀は、金融資本をはじめとするグローバル

底の戦いを求めていました。それらの流れを一つに結び合つていく二世紀の新たな国際秩序を創り上げる戦いを、日本の民主主義の徹底の戦いを通して出

会つて行こうではありませんか。私たちの求める民主主義は、人民の政治的・社会的参加の拡大であり、参加の拡大の中から自治と自決を育て、共に今を変え、相互支援しあう、参加民主主義です。

二世紀の中で育まれてきた、人民の参加によって戦い取られた民主主義の意志を継承し、国家関係の民主化、企業の民主化、社会の民主化をより大胆に押し進めていくことはありませんか。環境や社会の様々な暮らしの中から生まれる人民の知恵と力の統一を武器に、共通の運命にある各國人民の戦いと連帯しながら進もうではありませんか。

二世紀を、押金主義のアメリカ型グローバリズムから、人間主義に基づく、暮らしや環境に調和しない私たちは、局面上の困難さはありませんが、より広く、より近く人民の戦いと結び合い、別個に進む方がわざ上がっています。圧倒的に見えるグローバリズム勢力は経済不安定をその基礎にしている以上、

政党制を基準としたながら、各国内の「西側派」に直接間接に物質的支援を通して新世界秩序の形成を急ぎました。

湾岸戦争を経て、各國は、アメリカの強権を苦々しく思つながらも、これまでのように敵対せず、国際的な流れに協調しながら攻防を繰り広げる時代になりました。いわばアメリカ型グローバリズムの進行の中で、様々に多様な方法でアメリカに対峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。そして、益々強権化するアメリカの性急なやり口は、人民レベルの反対のみならず、帝国主義国家間ですら同調されないものとなつています。

私たちは、人民の戦いの側から、各國の闘う主体と共に、人民主権を求めて人民の参加拡大による民衆の富を増大させる政策であり、強いものをより優遇し、弱いものをより弱める地球支配としてあります。

さらに、グローバリズムの世界支配とそれに伴う国際競争の激化は、限りある地球の破壊をもたらしています。森林破壊、海水や湖水汚染・河川汚染なども世界の「工業開発区」で急速に進んでいることが報告されています。アメリカの財務副長官のサマーズの言うように、「公害産業は経済コストの低い第三世界に移すべきである」というのがグローバリストの立場です。しかし、地球上には限界があり、第三世界の環境破壊は帝国主義国家の環境をも破壊に導いています。

現在進行中のアメリカ式のグリーバリズムが進む限り、二世紀を人類史上かつてない押金主義の非人間的な世界に結果させるでしょう。

アーネスト・ヘミングウェイの「日米安保同盟への提言」によれば、米軍指揮下に自衛隊を実戦部隊として組み込むことが目標されています。アメリカは軍事的にも、彼らの世界軍事戦略の補完として自衛隊の役割を拡大するIMF、世界銀行、WTOなど超国家機関の公正化と民主化を目指す戦いと結び合ながて、戦いを育てています。

「日本はアメリカなしに生き残れない」と、アメリカの下の同盟者として自らの権益を実現する日本が現する「ありきたり」の地域現場に根ざした戦いを行っています。日本が現在進んでいます。日本が進むべき道は、アメリカとの共同開拓です。

起一エンティファードから、「土地と平和の交換」として、パレスチナ建国を巡つてイスラエル・パレスチナの攻防へと引き継がれています。グローバル支配に抗し、自らの秩序をうちたてるために、解放勢力も、革命勢力もまた、人民の生存の闘争、暮らしを守るために同調されないものとなつています。

私たちは、アジア諸国、世界の国々と敵対する道の中でも、様々な方法でアメリカに對峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。

主主義の徹底、社会運動、環境問題へと、グローバル支配に抗したグローバルな対抗勢力の形成を模索し続けてきました。パレスチナに於いても恒常的蜂起で闘っています。そして、益々強権化するアメリカの性急なやり口は、人民レベルの反対のみならず、帝

主主義の徹底、社会運動、環境問題へと、グローバル支配に抗したグローバルな対抗勢力の形成を模索し続けてきました。パレスチナに於いても恒常的蜂起で闘っています。そして、益々強権化するアメリカの性急なやり口は、人民レベルの反対のみならず、帝

と再編しようとしています。

アメリカの狙いは、日本を経済的軍事的に掌握し続けます。

主主義の徹底、社会運動、環境問題へと、グローバル支配に抗したグローバルな対抗勢力の形成を模索し続けてきました。パレスチナに於いても恒常的蜂起で闘っています。そして、益々強権化するアメリカの性急なやり口は、人民レベルの反対のみならず、帝

と再編しようとしています。

主主義の徹底、社会運動、環境問題へと、グローバル支配に抗したグローバルな対抗勢力の形成を模索し続けてきました。パレスチナに於いても恒常的蜂起で闘っています。そして、益々強権化するアメリカの性急なやり口は、人民レベルの反対のみならず、帝

と再編しようとしています。

主権者として、アジア諸国、世界の国々と敵対する道の中でも、様々な方法でアメリカに對峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。

主権者として、アジア諸国、世界の国々と敵対する道の中でも、様々な方法でアメリカに對峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。

主権者として、アジア諸国、世界の国々と敵対する道の中でも、様々な方法でアメリカに對峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。

主権者として、アジア諸国、世界の国々と敵対する道の中でも、様々な方法でアメリカに對峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。

主権者として、アジア諸国、世界の国々と敵対する道の中でも、様々な方法でアメリカに對峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。

主権者として、アジア諸国、世界の国々と敵対する道の中でも、様々な方法でアメリカに對峙し、アメリカの横暴に抗し、公正な国際秩序の形成に向けて闘っています。